

令和4(2022)年度 授業評価アンケートに対する自己点検・評価

教員名	授業評価アンケートに対する自己点検・評価	「自由記述欄」の内容に対する自己点検・評価
伊藤 利明	<p>「教育原理」「教育方法論(ICT活用の理論と方法を含む)」「社会科・公民科教育法Ⅰ」「道徳と宗教」「社会科・公民科教育法Ⅱ」「道徳教育の理論と実践」「倫理学」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業評価アンケート結果は、おおむね良好であった。</p> <p>授業を履修するときに、「科目名で判断」が一番多く、次に「時間割の都合」が多く、「シラバスで判断」がごく少数であった。「道徳と宗教」と「倫理学」では、欠席過多が2割程度になっていた。「時間割の都合」ではなく、シラバスで授業内容を確認したうえで、履修してほしい。</p>	<p>「教育方法論(ICT活用の理論と方法を含む)」「道徳と宗教」「道徳教育の理論と実践」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業評価アンケートでは、自由記述がなかった。</p> <p>「教育原理」では、「もうちょっと授業らしいこととして欲しかった」というコメントがあったが、何を期待しているのかが不明である。この授業は教職科目の一つなので、文科省が作成した教職課程コアカリキュラムの目標と内容に沿った授業内容にしている。教職課程コアカリキュラムは、すべての教職課程が共通に習得すべき資質・能力を示したものである。</p> <p>この授業では、シラバスに沿った内容を取り上げたが、パワーポイント資料を使用しながら授業を進めた。さらに、教育の時事を理解するために、教師の労働時間、軽いランドセル、宿題をなくした岐阜小、公立の中高一貫校などの新聞記事を紹介した。</p> <p>「社会科・公民科教育法Ⅰ」では、模擬授業について、教員からのコメントをもっとしてほしいとの要望があった。この授業では、厳しいコメントをして、落ち込むことを心配していたため、本人の自己評価を発表させていた。秋学期に開設した「社会科・公民科教育法Ⅱ」では、最初から教員からのコメントを増やすと同時に、ピア評価として、他の学生の模擬授業の良かった点と改善点を考えさせた。「社会科・公民科教育法Ⅱ」では、教員からのコメントに関する記述がなかった。</p> <p>「社会科・公民科教育法Ⅱ」では、学習指導案の見本が欲しいとの要望があった。次年度には、「教職の手引き」を学生に配布する予定であるが、その中に学習指導案の見本を掲載しているので、参照してほしい。</p> <p>「倫理学」では、「倫理観に関するものだったり、古くに哲学者が唱えた思想の話であったり、事前に自分が興味を持っていた分野の通りの講義内容でとても満足のいく授業だった。」というコメントがあった。まじめに授業に取り組んでいる学生のコメントである。</p>
伊藤雅一	<p>春学期に「環境政策論」、秋学期に「循環型社会論」を担当しているが、いずれの科目も、地域社会が直面する身近な環境問題をテーマにPBLを導入している。このため、学生の主体的な学びに特に関連する授業評価項目として「学生が質問や意見を述べられるように配慮したか」、「学生の理解度を確認しながら授業を進めたか」の評価を重視している。この2項目については、受講した学生の9割近くが5又は4の評価をしており、全体平均と比較しても0.5ポイント程度高い評価であったので、授業の意図は伝わったと受け止めている。次年度も、PBLを中心とした授業の進め方を工夫し、学習効果を高めていきたいと考えている。</p>	<p>授業に対する主なコメントとしては、「授業を受けるまで何をすれば良いかわからなかったが、授業を聞いて、何をすれば良いかわかるようになった」、「これからは繋がる内容であった」などであり、PBLによって獲得できた知識や能力に関する感想が寄せられていたと理解している。いずれの科目も、最初と5回目、10回目の授業で、授業の内容に対するコメントを書かせている。授業評価の自由記述(14回目の授業)を併せるとコメントを書く機会を4回確保していることになる。1科目平均のコメント数は100件を超える。授業を聞いたうえで、わからなかったこと、疑問に思ったことを理解しようとするコメントが多いが、こうしたコメントに対する回答を次回の授業でフィードバックしており、このことが学生の理解度向上やPBLの効果的実施に繋がっていると考えている。</p>
横山悦生	<p>アンケートの結果を見ると、全体として授業が丁寧に進められていること、多くの教員が熱意を持って授業に取り組んでいることが読み取れる。</p>	<p>出席の取り方について、その時間帯がまちまちであることが学生たちに不満であったようです。この点については、最初に出席を取るとその後帰宅する学生が出てきたり、最後に出席をすると授業の終わりの方で教室に戻ってくるような学生がいたりしたので、出席を取る時間帯を柔軟にしました。出席をいつ取るかについては、授業の最後の10分くらいの間に撮ることが一番いいように思われるが、実際問題としては難しい問題でもある。</p>
岡村 聖	<p>学生自身の授業への取組評価に関して、春学期に比べて「あなたは授業の内容を理解するため主体的に(自分自身で)学習しましたか」「この授業を受けてみて、あなた自身がシラバスに記載されているこの授業の到達目標を達成したと思いますか」の項目が、春学期に比べて秋学期の評価が低かった。春学期に比べて、秋学期の方が欠席回数が多い傾向があることが影響していると考えられる。次年度は、特に秋学期の学生の欠席状況の周知の頻度を増やし、学生自身の授業への取組評価が上昇するように改善していきたい。授業に関する評価に関しては、「先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」の項目が、春学期に比べて秋学期の評価が低かった。次年度は、授業において、学生が質問や意見を述べられる機会をより意識的に増やしていきたい。</p>	<p>授業が面白いという肯定的なコメントや座席が狭いという否定的なコメントが少数あったが、ほとんどが特になしや未回答であった。次年度は、授業評価アンケートの回答時間を増やすことで、自由記述欄の記載が増えるように配慮したい。</p>
河村郁江	<p>全体的には興味を持ってもらい、社会に出てから何らかの形で役に立つという評価をもらうことが出来た。今後の授業では、学生の理解が進み、能動的に授業に参加できるような授業づくりに励みたい。</p>	<p>楽しい、親切という意見がもられたのは良かった。しかし、手を挙げてほとんど反応してくれなかったという意見があった。その授業は内容が難しい制作を行うため質問が多く、1人での対応が難しかったため、来年度は出来るだけわかりやすい内容で、しっかり理解できるスピードを心掛けることと、アシスタントの確保をしようと思う。</p>

吉永茂樹	<p>職業指導・春学期の科目で、当初は5名の登録でしたが、最後まで受講したのは2名だけでした。高校商業科の教育内容の説明を初期段階に十分理解されなかった事は反省点です。受講生2名に対しては、個別指導も可能でお互いに課題発表・意見交換が密に出来て、効果のある授業展開がなされました。</p> <p>商業科教育法Ⅰ・Ⅱ：春学期と秋学期の科目で、いずれも受講生1名の登録でした。春学期には毎回課題を私と学生にてマンツーマン授業が出来て、受講生の意識が高まってきました。秋学期には学生による学習指導案の作成と模擬授業が中心で、春学期同様にマンツーマン指導がなされました。本来であれば、複数の学生同士による意見交換が理想ですが、一方的な授業内容にならない様に注意し、来る教育実習に向けての準備をしました。</p>	自由記述はありませんでした。
吉岡 康典	<p>担当した授業は、逸脱することなくスムーズな進行であった。学生の反応は薄いものの、自身のために何かを理解してくれたのではないかと満足である。今後も、学生のために良い授業を心掛けたい。</p>	自由記述なし。
宮坂まみ	<p>春学期、秋学期ともに、全ての評価項目の値が全科目の平均点より高く、春学期の総計は4.3、秋学期は4.2でした。「先生は、わかりやすい言葉を使ったりゆくり話したりするなど、聞き取りやすいように話をしましたか」は春学期4.5(全科目平均4.1)、秋学期4.3(全科目平均4.1)でしたが、授業期間中には学生から「話すのが速すぎる」「書いている途中でスライドが切り替わってしまった」などのコメントや要望を受けており、都度気を付けるようにしたためだと思えます。これからも学生の声を取り入れて改善を続けていきたいと思えます。</p>	<p>・「資料が見やすい」「わかりやすい」というコメントが複数あり、これからもより理解しやすいスライドへ改良していきたいと思っています。</p> <p>・「すぐに役立つ知識も聞きたい」という要望がありました。これまでも適宜取り入れてはいますが、できれば毎回の授業で取り入れるようにしていきたいと思えます。</p>
高木弘恵	<p>学生たちが主体的に学ぶことができるアクティブラーニングを次年度以降は増やしていこうと思います。</p>	<p>学生がレポートを作成するにあたりなるべくゆくり進行しているが今後もスピードを配慮しながら実施したい。</p>
今永典秀	<p>忌憚ない評価をいただきました。特に、学生の状況に応じて対応する点や、質問をしやすくする工夫や、振り返りを行い、理解度をなるべく高める工夫をすることが大切だと感じました。</p>	<p>「楽しかった」と2名の方からコメントがあり、「先生が2人以上いる意味を感じなかった」というコメントがあった。関心を持ってもらえるように工夫をしていきたいと思っている。また、複数名の講義の場合は、事前事後のコミュニケーションを重ねて、満足度が高まり、教育効果が高まる工夫をしていきたいと思えます。</p>
三宅 章介	<p>平均点を求めたところ、「熱意をもって授業した」4.29、「時間どおりの授業」4.14、「シラバスどおり」3.93が上位三者であった。また、低かった項目は「学生の主体的な学習への配慮」3.14、「分かりやすい情報提供」3.29、「学びの目標達成度」3.36であった。</p> <p>このことから、上位の項目は更に力を入れて教えていきたい。それには低い項目であった「学生の主体的な学習への配慮」「分かりやすい情報提供」「学びの達成度」に工夫を加えることが大事と思う。</p> <p>そこで、考えられることは、①板書が終わり、次の内容に入るとき、あるいは単元が終わったとき、毎回の授業の終わりの際の復習、始まるときの今回の内容と前回の復習を簡単にでも伝えていきたい。</p> <p>また、毎回は難しいかもしれないが、復習の意味で、可能な限り簡単なレポートを書いてもらい、それをチェックして返却するなどをしてみたい。それには質問項目にあるように「学生の理解度に沿う内容」(3.89)、「分かりやすさ」(3.43)を念頭に進めたい。そうすれば、上位項目もさらに向上すると思う。</p>	<p>経営管理論で資料を配布してほしいという意見が一つあった。これは当然のことであるし、みんなもそれを望んでいることも十理解できるので、毎回とは言えないが、可能な限り配布するように心掛けたい。その場合、理論になりすぎのではなく、事例を中心にしたものにしたい。</p>
菅井径世	<p>評価点は担当する科目毎、年度毎に、変動している。学内全体で同様に変動が大きい傾向があるとのことであるが、個別のデータからも、評価点の平均値に対するばらつき(標準偏差)が同様の傾向があることが分かった。履修生の数に対してアンケート数が少ないこと、また、回答のあったアンケートにおける評価項目においてどの質問に対しても同じ評価結果を選択している回答が多いことから変動は誤差の範囲であると考えられる。また、開講される曜日、時間帯が評価点に影響している可能性も高い。毎年、大きく内容や方法変えているわけではなく、講義を行う姿勢やスキルが急激によくなったり、悪くなったりしているわけでもないにもかかわらず、ばらつきが大きいのは履修生の姿勢にばらつきが大きいことによるところが大であと考えられる。</p>	<p>「特に要望はありません」といったコメントを含め、回答数が少ないので、アンケートによらず、学生に声をかけて希望を聞くようにしている。卒業生から「今になって、あの時のお話の内容が分かるようになりました」との声を聴くと、重要なポイントとして継続的に講義していくべき内容が分かる。今後も、これらも参考にしながら進めていく予定である。「スライドを進めるのが早いのでメモをする時間が欲しい」との要望があるが、過去にも同様の希望があったので、前もって講義内容をTeamsへアップロードし案内もしている。資料があることは多くの履修生が周知していたが、漏れのないように周知を図ることで対応する予定である。</p>

星野 雪子	アンケート結果は、「興味や関心のもてる」「役に立つ内容」もポイントが高く、課題に着実に取り組む「主体的に学習」のポイントが高い学習態度の受講生は、「目標達成」のポイントも高く学習目標を達成できているということを読み取ることができました。「わかりやすい説明」「わかりやすい教材提示」「質問配慮」「理解度確認」のポイントも高く、授業内容を確実に理解できような、授業構成や教材開発、説明方策の工夫、説明を繰返して理解を促進する、一斉講義に加えて個別指導のための質問タイムを確保する取組の成果を読み取ることができました。PC教室における演習講義と比較すると、大講義室の多人数の座学講義のポイントのばらつきがありますので、授業構成にさらなる工夫が必要と考えています。	PC教室の演習科目では、「楽しい」「学生の課題進度に臨機応変に対応したことが印象的」「質問タイムが好印象」「文句一つなく完璧でした」という記述があり、主体的な学習態度を引き出すことができた読み取りました。大講義室の多人数の座学講義では「思いつかないくらい素晴らしいものでした」の他は特になしという記載が多くなりましたのは、各講義において意見・感想を送信させて、次の講義でコメントすることを繰返しているため、それ以上の意見を思いつかないかと推察しています。座学のオムニバス授業は、授業内容の相互関係について議論しておく必要性を読み取ることができました。効果的で継続すべきことと、改善すべきことを具体的に把握して、授業改善に役立てていきます。
赤松 章	春学期の『統計学基礎』で講義&演習形式の授業を行ったが、「わかりやすかった」や「このままでよい」というポジティブな回答があった一方「難しかった」という回答もあった。そこで秋学期の『統計処理とデータマイニングⅠ』では実際の地場企業を訪問し、その企業の実データを提供頂いて学生に、事業の改善提案をしてもらうというPBL(プロジェクトベースドラーニング)の形式で授業を行った。その結果、「主体的に学習したか」という問いに対して、平均点が春:3.45、秋:4.0と点数が向上した。実際に積極的に授業に参加する学生が多くなったことが実感できた。今後もできる限り、授業にアクティブラーニングの手法を取り入れて、学生が主体的に取り組めて学習効果の高い授業にしていきたいと考えています。	春学期の『統計学基礎』で講義&演習形式の授業を行ったが、「わかりやすかった」や「このままでよい」というポジティブな回答があった一方「難しかった」という回答もあった。同じ授業でも生徒により捉え方が大きく異なることを実感した。したがって秋学期に採用したように講義&演習形式をとった場合でも、PBL形式をとった場合でも全員参加型で取り組めるように配慮が必要と思った。具体的には講義&演習形式では、個人個人の理解度や進み具合を確認して指導することを、PBL形式では、それぞれが役割をしっかりと担える、貢献できるようにしたいと考えています。
川崎成一	授業理解度、情報・資料の分かりやすさ、社会に出てからの有用性など、授業での到達目標を概ね達成できていたものと思われる。引き続き、学生とのコミュニケーションを大切にしながら、まずは授業に関心を持ってもらえるような授業設計を心掛けていきたい。	授業そのものに対する自由記述はありませんでした。
巢 宇燕	今年度の春学期と秋学期を合わせて4科目の授業でアンケートを実施しました。全体としては、秋学期の2科目は春学期の2科目より良い評価結果になっており、2科目とも殆どの問いに4.5ポイント以上で、総計のところは4.6と4.7ポイントになり、学校全体の平均4.1ポイントより遥かに超えたので、数字は絶対とは言えなくても、結果としてはかなり評価されました。春学期の科目「プログラミング基礎」は、殆ど問いに学校全体の平均値とほぼ同じですが、問い11「先生は、熱意を持って授業に取り組んでいましたか」は、学校全体の平均値は4.2に対し4.5ポイントで、比較的高い評価が得られました。秋学期の科目「プログラミング応用」では、問9「授業内容は自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」と問11と同じ4.8ポイントになり、より高く評価されました。春学期の科目「知識情報処理」では、全ての問いにおいて、学校全体の平均値を超えており、総計は学校平均の4.1より4.5という結果になりました。特に秋学期科目「人工知能概論」では平均を超えているだけではなく、内の7個の問いに満点近く4.9ポイントの評価が得ており、総計4.7ポイントの評価になりました。そして、今まであまり評価されていなかった問い5「先生は、分かりやすい言葉を使ったりゆっくり話したりすることなど、聞き取りやすいように話をしましたか」は、春学期の4ポイントに対し、秋学期は4.7ポイントに上がり、問い7「先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」は、春学期の3.9ポイントから秋学期の4.9ポイントになり、いずれもかなりの改善が見られました。纏めてみると、全担当科目において、高い評価を得ており、学生からの理解度も高くあり、遣り甲斐が感じさせられました。これからも、新しい内容をどんどん取り入れ、もっと工夫していき、学生によりわかりやすく解説し、興味や関心をもってもらえるように一層努力して取り組みたいと思います。	春学期:①わかるよね前提なのが少しあったので困惑しました。②自分課題解決プログラミングを学べるのが大変でしたがでも諦めない。間違っって悔しさを立ち向かうしない。プログラミングマスターになりたいから。③めっちゃ分かりやすく教えてくれて助かりました。④巢先生いつでも優しく教え、困ったところあっても簡単に解説してくれ、社会へ出てこの授業内容も役に立つと思います。秋学期:①大学のwifiが弱くて動画などが上手く見れない時があったのでwifi環境の強化をして欲しいです。②もうすこし最新の情報を知りたい。③ロボットの発達がますます分かる授業であり、人工知能がいかに大事であり、メリットでもあればデメリットでもあるという左右されやすいものであることを学びました。④丁寧に説明してくださったり、課題による理解度チェック、ビデオによる理解促進など様々な授業内容からよく理解することができたと思います。PPの文字が小さいことがあったので、もう少し大きな文字にしてみたい。⑤興味と教育を結合し、教育内容も世界の先端科学技術の展示などである。大好きなレッスンです。学生の自由記述から、評価されたところと改善してほしいところをよくわかりましたので、評価の部分を生かし、改善すべき部分を良くしていき、より良い授業を行うように常に心がけたいと思います。
長谷川泰洋	全体的には、評価4点以上で高い評価を得られている。特に評価が高い項目として、「授業の内容は自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」、「授業内容はシラバスの内容に沿ったものでしたか」、「先生は、熱意を持って授業に取り組んでいましたか」において、高い傾向が見られた。この点は、今後も維持していけるように取り組む。 一方、一部の学生で低い評価が見られた項目として、「あなたは授業の内容を理解するため主体的に(自分自身で)学習しましたか」、「先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」が挙げられる。このことから、学生が主体的に学習する時間を確保できる様にすることや主体的に学習する仕組み(課題提示、グループワーク等)を検討する。また、講義中に質問や意見を述べられる時間の確保や仕組みを取り入れていく。	「特になし」の回答が8回答で最も多い中、とても良い授業だったとの回答、小テストのカンニング対策を徹底して欲しいとの回答、理解度が高まる工夫をして欲しいとの回答があった。 これらの意見に対して、小テスト時におけるカンニング対策については、これまで以上に厳しく対応していく。また、理解度が高まる工夫として、講義時間外での学習時間の確保を勧めると共に、これまで以上に復習の時間を設けるように取り組む。
辻紳一	全体的には、「先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めましたか」という点について、相対的に高い評価を得ており、学生を巻き込む姿勢が伝わったと考えている。また、経営戦略では、専門的な用語が多いことから、学生がイメージしやすい企業事例の動画を流し、その事例をもとに経営戦略のフレームワークの使い方を理解する工夫を行っている。「何らかの形で役に立つ内容が多く含まれている」との点が相対的に高い評価に繋がっており、来年度も引き続き、学生の興味や関心が高い内容を充実させていきたい。	自由記述欄には、「特になし」が多くみられたことから、学生からは好評であったと解釈している。一方、経営戦略においては「今の企業の戦略の変化の例を教えてください」との意欲的なコメントを頂き、来年度以降の授業で考慮していきたい。

富田 裕平	<p>簿記関連科目が例年よりも高い評価を受けることができたことはよかったです。</p> <p>今後、点数がさらに高まるように授業内容の向上を図りたい。</p>	<p>自由記述欄の記載がほとんどないため、今後は何かしら記載してもらえるような内容に改善したい。</p>
福田 ムフタル	<p>今年度の学生による授業評価アンケートは例年と違い、回答者が極端に少なかったです。その理由として第一に全ての科目に対して授業評価アンケートを実施しているため、終わりに近づくにつれて学生の関心が減っていき、回答意欲がなくなったと考えられます。第二にアンケートはオンラインでかつ匿名で実施されるため、回答しなくても問題ないと判断された可能性があります。しかしそれでも肯定的な評価と否定的な評価を含め、真面目に回答してくれた学生が大勢いることには感謝したいと思います。特に否定的な意見は今後の授業改善、及び教育の質向上に大変参考になるからです。</p> <p>今回の学生による授業評価アンケートの結果は、平均的に見ると、前回に比べていくらか改善が見られた科目と改善が見られなかった科目がありました。改善があった科目では、一つは、ほぼ毎回の授業で課題を用意して学生に配り、授業の終わりにその課題に答えてもらい、学生の講義への関心度を高めたことでもあります。このような方法は、今後も続けたいし、他の授業にも拡大したいと思っています。もう一つは、課題・宿題をできるだけ学生に分かりやすく、答えやすい内容にするよう心がけたことであつたと思います。更に、特に勉強にあまり関心のない学生に対して、厳しく叱ることはせず、授業内容を何度も丁寧に説明することに努めました。</p> <p>改善が見られていない科目に関しては、資格に関わる科目でもあり、学生には最低限のスキルを確実に身につけてもらうために、多めの課題や練習問題を出しており、欠席した学生に関しても同様の課題を課していますので、「厳しすぎる」と不満を言う学生もいました。その科目の後編から履修者が極端に少なくなることからその状況が伺えます。課題や練習問題を少なくすると基礎力が形成されないし、多めにすると受講者が減るというジレンマに遭っています。</p>	<p>自由記述欄には3科目全部合わせると7人しか記述がなく、その2つが否定的な意見でした。「酷く癖のある字であり、(ここで終わっているが直してほしいという意見だと思えます。改善に努力します。)、」「たまたま答えが被っただけでカンニング扱いはやめてください。」との意見でした。後者に関してですが、中間テストのある問題の2人の回答には誤字があり、誤回答であり、回答には1字も違いが無かったので、返却した回答用紙に「何でA君とB君の回答が誤字も含めて同じか」とコメントを書いた記憶があり、恐らく真面目に回答した学生が不満を持ったに違いないです。同様の状況が発生したらこれからも同様のコメントを書きます。</p> <p>自由記述欄への回答者が少ないことに関しては、学生の評価アンケートへの関心の低さを示すのか、それとも教員(私)の努力不足なのかが定かではありませんが、教員が努力すればよい方向に向かうことには間違いありませんので、次年度からはこれまでの経験を生かしながら改善に努力したいと思います。</p>
平野 達郎	<p>全体として3.9~4.4の評価であった。学生は、ほとんど5を付けていたり、ほとんど3を付けていたりする状況で、大きく低く、注意が必要な項目は見当たらなかった。個々の採点や平均を見ると、全体として学生にとって、一定の意義を感じる授業だと評価していると受け止める。特に、実務家として教職を教えているので、「あなたがこれから社会に出るにあたって、あるいは専門の授業を受講するにあたって、この授業には何らかの形で役に立つ内容が多く含まれていましたか」という項目が気になったが、4.2であり、比較的高い評価で、安心した。3.9は、「あなたは授業の内容を理解するため主体的に(自分自身で)学習しましたか。」と「この授業を受けてみて、あなた自身がシラバスに記載されているこの授業の到達目標を達成したと思いますか。」で、欠席の多い学生に低い評価が見られるので、欠席課題等には工夫があるかもしれない。</p>	<p>自由記述がありませんでした。</p>
傍嶋則之	<p>①担当教科の授業で学んで頂きたい学際的な内容を盛り込み過ぎて多少言葉が早口になり理解を得られにくかったことに反省し、ボリュームを絞って内容を精査して授業を進める。②大人数授業では、学生に質問を投げかけてあてるようなことはせず、質問があった際には速やかに的確に回答していく。③引き続き、授業の最初と中間部分には資格取得向上にも繋がる問題を回答して頂く。</p>	<p>①大人数・中小規模問わず、授業に際しては、教員から無理に学生に回答を求めることはせずに、質問が有った際には速やかに回答を行う。②学生自身の多様性を認め、反省して結果を見て、正しい方向に指導出来る様切り替える。③授業やゼミ活動を通して、正しい方向へと思うあまりに指導方法が学生自身の負担になったことを深く反省して、前述の学生自身の多様性を鑑みて指導できるようにしていく。</p>
矢野昌彦	<p>全体として、春学期及び秋学期ともに4.1の評価で、問題ないと感じている。ただし、「この授業を受けてみて、あなた自身がシラバスに記載されているこの授業の到達目標を達成したと思いますか」の回答が、春学期3.9、秋学期3.8とやや他の項目比べ、低くなった点が反省点である。再度授業のゴールを意識して理解度を高める創意工夫が必要であると判断している。</p>	<p>春学期においては、分かりやすくて良かったです。という評価の一方でパワーポイントの切り替えが早く、書きとれないとの意見があり、重要なポイントは特に、ゆっくり話し、書き取り確認をいれていくことが重要と感じた。</p> <p>秋学期においては、後ろのグループの声がうるさいとの意見もあった。講義中は、静寂は保たれており、特に問題なかったが、個別のレポート返却時には、個別のコメント対応と重なり、一部騒がしいと感じた学生がいたと考えている。今後は、個別のコメント対応のみでなく、全体の学生に配慮して、静寂を保つよう強く注意していくとともに、個別レポートの全体共有など成果の共有を通じて、個人レポートの質向上などの改善も実施していきたい。</p>

<p>林 敬三</p>	<p>春学期の「ハードウェア概論」及び秋学期の「ソフトウェア概論」の両科目は、ともに1時限目の授業である。悪天候や冬になると、遅刻か欠席の学生が増えるとの問題がある。この問題を解決(改善?)するために、今までと同じようにプッシュとプル2つの方法を同時に実施する必要があると考えられる。</p> <p>プッシュについて、出欠を厳しくチェックするとともに、毎回小テストを導入する。定刻出席しなければ、出席点のみならず、テストの点数も取れないというプレッシャーを感じさせる方法である。</p> <p>プルについて、授業内容の面白さと分かり易さを増やせるとともに、体を動かせるアクティブ・ラーニング式授業を導入することが有効であると考えられる。Power Pointの画像や図表を用いることによって、分かり易さを増やす。クイズを出して、正解者にボーナス(出席点1点など)を与える方式で授業の聴講や参加意識を向上させる方法である。</p>	<p>学生の自由記述について、パワーポイントを使って説明 だったのでとても見やすかったとの評価もあれば、オンライン授業は少し聞きにくかったとの評価もあった。今後は、褒められた点についてできるだけキープし、指摘された点について積極的に改善したいと考えている。</p>
-------------	--	--